

若年者の男女共同参画に関する意識についての検討結果 <概要>

滋賀県男女共同参画審議会

問題意識

- 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」に同感する割合をみると、20歳代の女性の割合が、30歳代、40歳代を上回り、50歳代とはほぼ同じ(図1)
- 20歳代女性について、近年、同感する割合が高くなる傾向あり(図2)



若年者の男女共同参画の現状、20歳代の固定的性別役割分担意識の要因、必要な取組などについて検討

図1「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」に同感する割合(女性)

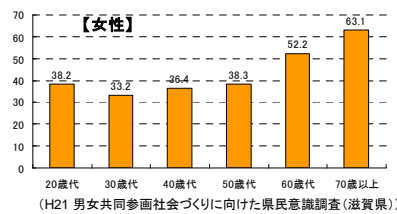
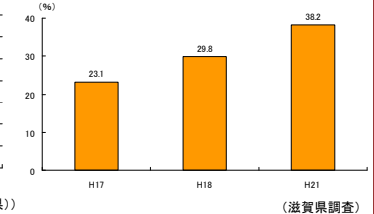


図2「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」に同感する20歳代女性割合の推移



若年者の男女共同参画に関する意識の現状

男女共同参画意識

- 女性の約3割、男性の約4割が「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」に同感。
- 20歳代の中では年齢が高い方が「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」に同感する割合が高くなっており、社会での経験が固定的性別役割分担意識に影響していると考えられる。
- 「子どもが小さい時は、保育園などに子どもを預けず、母親が面倒をみるべきだ」については、女性の約3割、男性の約2割が同感。
- 「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」に同感する割合は約9割。同感する理由としては、「家事・育児は夫婦が協力して行うべきものだから」が最多。

女性にとってのロールモデル

- 20歳代の女性にとってのロールモデルは「母親」が最多。
- 20歳代前半は、ロールモデルとして「母親」や「父親」の割合が高く、身近な家族の影響を受けていることがわかる。一方、20歳代後半になると、「友人・同僚」や「学校・職場の先輩、上司」をロールモデルとする割合が高くなっており、年齢層でロールモデルに変化が見られる。
- ロールモデルがいる女性の方が、ロールモデルがない女性に比べ、継続就労を選択し、固定的性別役割分担意識が低いなど、男女共同参画意識に差がみえてくる。

男女共同参画教育

- 約6割が男女共同参画の学習経験があり、うち理解できた人が約8割。
- 男女共同参画の学習が、女性が継続就労を選択することにつながっていると考えられる。
- 男性についても、男女共同参画の学習が、配偶者の就労を選択することにつながっていると考えられる。
- 一方、「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」などの固定的性別役割分担に関する内容については、学習経験があり、理解度が高い層の方が、同感する割合が高い。男女共同参画を学ぶことで、現実の厳しさを認識し、現実を直視すればするほど、仕事と家庭の両立に向けた社会の未熟さや制度の未整備がわかり、両立は困難と考えたり、あえて厳しい道を選ばないという選択をしている若年者の傾向が現れているのではないかと考えられる。
- 学習経験があり、理解度が高い方が父親の家事・育児参画に肯定的。

将来の不安

- 20歳代の約8割が将来の生活に不安。内容としては、「生計」が最多。
- 「老後生活」が不安の内容の2番目となっており、年金や社会保障などの不安が反映されていると考えられる。
- 20歳代の多くが「生計」について不安を抱えており、「自分だけの収入だけでは経済的に苦しいから」配偶者に仕事を継続してほしいと考える男性が多いと考えられる。
- 一方、将来の不安が少なければ、配偶者に仕事を継続してほしい理由として「好きな仕事をずっと続けてほしいから」など経済的な理由以外の項目を挙げる割合が高くなっており、将来への不安の有無が、配偶者に就労を希望する理由に影響を及ぼしていると考えられる。

女性の働き方

- 女性は、働き方の理想、現実とも、仕事を一旦やめる、または家事等に専念する割合が6割超。また、一旦仕事をやめた後の働き方として、理想、現実ともにフルタイムよりもパートタイムを選ぶ割合が高い。
- 男性も、配偶者の働き方の理想、現実とも、仕事を一旦やめる、または家事等に専念する割合が6割程度。また、配偶者が一旦仕事をやめた後の働き方として、理想、現実ともにフルタイムよりもパートタイムを選ぶ割合が高い。
- 将来の不安の多くが「生計」であり、男性は、自分だけの収入では経済的に苦しく、生計を補完するために、配偶者の就労を希望していることがわかる。

結婚・子育て

- 20歳代の男女とも、結婚や子どもを持つことに対する希望は高い。
- 子どもの数は、理想より現実の方が少なくなる傾向があり、子育てのイメージから推察すると、経済的負担や時間的制約の影響が考えられる。
- 子育てのイメージでは、男性は女性に比べ、経済的負担感が高い一方、時間的制約や身体的・精神的負担の部分ではイメージが低くなっており、子育てへの関わり方の役割分担意識がイメージの差となっていると考えられる。

ゲーム

- 「ゲーム」については、若年者の半数が「男性の登場人物が活躍するものが多い」と認識しており、「ゲーム」の登場人物については男性中心の傾向があるのではないかと考えられる。

若年者の男女共同参画意識に影響を及ぼす要因

①若年者の女性にとって『ロールモデル』が影響している

- ◆ロールモデルのいる女性の方が、いない女性に比べ継続就労を選択したり、固定的性別役割分担意識が低いなど、ロールモデルの有無が、20歳代女性の男女共同参画意識に影響。
- ◆ロールモデルがいることで、仕事と家庭の両立に向けたイメージがしやすくなり、より積極的に女性の継続就労や、男女共同での家事・育児分担などへの意識が高まるものと考えられる。

②若年者の女性にとって『家族』とりわけ『母親』が影響している

- ◆若年者の女性の多くは「母親」を「自分の将来像」としてとらえている。
- ◆固定的性別役割分担意識に対して、自分自身の家庭の状況が影響。
- ◆ヒアリング調査では、母親が仕事と子育てを両立していることを肯定的に捉える場合と、逆に両立の大変さを身近に感じ、両立は難しいと考えてしまう場合があることがわかった。

③若年者にとって『教育』が影響している

- ◆男女共同参画の学習経験が、若年者の就労希望に影響。
- ◆固定的性別役割分担に関する内容については、学習経験があり、理解度が高い層の方が、同感する割合が高い。一方、「父親は、母親と役割分担して、家事・育児に積極的に参画すべきだ」についても同感する割合が高くなっており、男女共同参画教育が若年者の意識に様々な影響。

今後の方向性に対応方策

1 ロールモデルを見つけることができる！

- ▶身近で多様なロールモデルの提示・交流機会の提供
 - ・県内ロールモデルの情報収集、ホームページでの紹介
 - ・ロールモデルとの交流の場、女性活用企業の情報発信 など



2 母親や父親がいきいきと仕事と子育てを両立できる！

- ▶母親が仕事と子育てを両立できる施策の推進
 - ・「仕事と子育て両立支援策提言書」(H23.3)の具体化に向けた取組 など
- ▶父親の家庭力発揮への支援
 - ・男性の意識改革や職場環境の改善、家事・育児を実践する男性の応援 など



3 充実した男女共同参画教育を受けられる！

- ▶発達段階に応じた男女共同参画教育の推進
 - ・副読本の活用率の向上
 - ・小学校低学年から高校までの発達段階に応じた教育の推進 など
- ▶大学等における男女共同参画教育の推進
 - ・キャリア教育と連携した男女共同参画教育の推進 など

